

令和2年度 石狩地区教育経営研究会

- 1 目的 教育経営の充実を期し、今日的教育課題について研究を深める。
- 2 主催 北海道小学校校長会、北海道中学校校長会、石狩管内小中学校校長会
- 3 日時 令和2年10月7日(火)
- 4 会場 石狩市教育研修センター
- 5 参加者 石狩管内小中学校校長会員他(21名)
- 6 日程 15:00~15:15 開会式
15:15~15:30 全国・全道情勢報告
15:30~15:40 道小・道中からの回答
15:40~15:50 道小・道中への質疑応答並びに要望
15:50 閉会
- 7 開会式
 - ①主催者挨拶 石狩管内小中学校校長会 会長 出村 好孝
 - ②講師団代表挨拶 北海道小学校校長会 会長 神谷 敦 氏
 - ③講師紹介 石狩管内小中学校校長会経営部 佐藤 辰彦
- 8 全国・全道情勢報告
北海道小学校校長会 幹事 山村 健史 氏
 - (1) 理事研修会における議題「中央教育審議会初等中央教育分科会」新しい時代の初等中等教育の在り方特別部会中間まとめ(骨子案)について
 - ・文部科学省においてもコロナの中でどのように教育を進め、学びの保障をしていくのかが課題になっている。
 - ・小中一貫教育は令和3年11月に北広島で全国サミットが開催され、札幌では令和4年度に全校で進めることが決まっている。
 - (2) デジタル教科書の今後の在り方について
 - ・紙ベースからデジタル教科書に移行していく可能性がある。
 - ・検定の在り方、使い方→机の様式について考えていく必要がある。
 - ・GIGAスクールを含め市町村によるWi-Fi環境整備の差→校長会で働きかけていく必要がある。
 - (3) 全連小対策部会において道小から報告した文書について
 - ・全連小の会議において、コロナの感染状況で各校長の意識が違う。
→感染が多い関東圏は感染者が出た際の対応を考えている。
感染が少ない地域は感染者を出さないための手立てを第一に考えている。

(4) 理事研の教育情報について

- ・北海道のコロナの現状と対策や学校運営について記事を載せているので参考にしてほしい。

9 道小・道中からの回答

北海道小学校校長会 幹事 山村 健史 氏
北海道中学校校長会 幹事 佐藤 誠 氏

(1) 働き方改革について→行政の支援

【回答（抜粋）】

子どもと向き合う時間の確保にかかわる諸問題等や学校における働き方改革のより一層の推進等について、(1)校務支援システム等 ICT 環境の地域格差の解消(2)地方交付税措置による教材・備品等の整備・充実「教員数」「専科教員や講師」「小2・中2以上の35人学級」「小規模校の定数や専任教頭」など、教職員数やスタッフの増員等について道教委に要望をした。

道からは、国に対して「必要な定数措置」「新たな定数改善計画」「専門スタッフの財源拡充」等を要望していく市町村教育委員会に「校務支援システムの導入」「勤務時間を把握し集計するシステムの導入」「給食費の公会計化」などを働きかけていくとの回答を得ている。

(2) コロナ禍における標準時数確保について

【回答（抜粋）】

「学年内に指導が終わるように努めても」という表現や「新型コロナウイルス感染症に対処するために必要があると認められるとき」という表現があることに留意し、各学校は市町村教育委員会と連携し、時数確保には最大限の努力が必要となると考える。

10 道小・道中への質疑応答並びに要望

【追加質問】

- (1) 標準時数より下回って取り組んでいる学校、自治体はないのか？
- (2) 学習支援員、スクールサポートスタッフの次年度以降確保を要望してほしい。

【回答（抜粋）】

- (1) 時数確保の課題は地域によって大きな差がある。都市部では各校で行事の練習の削減等の工夫をしている。
- (2) 人と予算の課題がある。予算については関係機関と連携し、進めているし、今後も継続していく。

11 閉会